

1人1人が自立へ向かって、光ろう！

いっとうしょうぐう 一灯照隅

572人がみんなで光れば、

灯中はさらに輝く！

福井市灯明寺中学校 指導部通信

発行 福井市灯明寺中学校

12月 23日

生徒指導部

令和6年度 第15号

生徒指導部より～いじめ・差別・SNSでの人権侵害を撲滅しよう～

○「人権を考える月」人権について理解を深め、いじめ撲滅を目指します。

これまで灯中 PRIDE や川柳作りプロジェクト、人権集会、動画・全校道徳・ありがとうメッセージ・5大 Happy Word・・・指導部や生徒会を中心にいろんな取組をしてきました。ですが、大切なのは【人ごとではなく自分事として捉える】ことや【気づきや学びを普段の生活や行動に落とし込む】ことだと思います。悪ふざけやからかい、単に自分が楽しむだけの自己中心的な行動であること。相手が笑っていても、心の中は見えない、ひどく傷ついているかもしれないということ。SNS上の投稿や拡散は一生残るデジタルタトゥーとなる可能性があること、を理解し、忘れないでください。

右の「入試と母」という詩は、以前担任した3年生の男子がつくった詩です。人の気持ちや立場を想像する力の大切さを教えてくれます。指導部だより裏面の「表現の自由ってなんだろう？」中の【私は友達のたった一つに過ぎない姿を友達の全てだと思っていた】というところは、「友達」を『生徒』に置きかえてみると、教師として常に忘れてはいけないことだと、先生も考えさせられました。ぜひ、読んでみてください。

○いよいよ冬休み！冬休みもタイムマネジメント力で充実させよう！

今年の冬休みは土日を入れると15日間になります。タイムマネジメント力（やりたいことの優先順位を考え、限りある時間をコントロールし、見通しを持って行動する力）で、充実した休みにできるといいですね。冬休みは、クリスマス・大晦日・お正月・・・楽しいイベントが多いぶん、生活リズムも乱れがちなので、まずは実現可能な計画を立てましょう。おすすめは、夏休みと同じで、1週間ごとの計画です。12/24（火）～30（月）、31（火）～1/6（月）で区切って、学習（課題）や部活、家の用事などを見通して計画を立てましょう。

1/7（火）は頑張った自分へのご褒美（or うまく計画通りにできなかった場合の保険）として、フリーにしておくのもいいかもしれませんね。

年末には大掃除をして、気分良く2025年を迎えよう。受験生でも家族の一員です。
しっかりお手伝いしよう！



入試と母

中3男子

夜、母と話をしていました。
母は静かな声で話しました。
何の話かという、
入試のことなのです。
母は高校受験に失敗したそうです。
合格発表があった日、
一歩も家から出られなくて、
泣いていたそうです。
だから世間話などで、
あの子が入ったとか、
この子は落ちたとか、
そんな話は一切しません。
今になってみると、
あの時のことが
ひどく役に立ったと言っていました。
心のやさしさの大切さ。
いろんな人の気持ちや立場。
それがわかることの大切さを
その体験から学んだそうです。
不合格を冷たい目で見ない母を
ぼくは尊敬します。
今夜、母が一層好きになりました。
母を前より尊敬する気になりました。

【「ありがとうメッセージ」より…灯中っていいね！】

生徒会の企画で、生徒玄関に「ありがとう BOX」が設置されていました。「何気ない、日常の『ありがとう』があれば、ぜひ紹介してください」というものです。その中に投函されていたものの一部を紹介します。



ペンを拾ってくれて、ありがとう

かみ切ったの気づいてくれて最高やった!!
ありがと!!

Fさん いつもかっこよくて、ピカピカ
な笑顔を見せてくれてありがとう

いつもまい給食、ありがとうございます

いつも笑わせてくれて Thank you!!

Yさん、いつも助けてくれてありがとう

Nさん 給食の準備を手伝ってくれてありがとう

先生、毎日見守ってくれてありがとう

いつもわかりやすく授業を教えてくれて
ありがとうございます！朝黒板に書いてあ
るいちごの絵に元気をもらっています。

〇〇様 落ちているゴミを拾ったりしました。
また、困っている人を助けて、すばらしいと思った。

先生！！全然志望校に届く点数じゃないのに、
絶対いけるって言ってくれてありがとう



感謝
ありがとう

表現の自由って何だろう？

「日本国憲法第二十一条では集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する、とあります。これは自由権の一つですね。」公民の授業で先生が説明する。

「えっ」

私は誰にも聞こえないように小さく驚いた。ある言葉が私の心に引っかかる気がした。
—表現の自由—

私は前の席に座る友達の背中をじっと見つめてしまった。私を含め、同じ中学校に通う生徒、先生はその友達の声を一度も聞いたことがない。だから、その友達には「はい」か「いいえ」で答えられる質問をし、コミュニケーションを図っている。うなずいたり、瞬きをしたり、繋いだ手を握ったり、友達は私たちの問いかけにこうして答える学校生活を、小学校からの九年間送っている。誰も話すことを強制しないし、責めもしない。しかし、「はい」と「いいえ」の学校生活を送る友達に、表現の自由はあるのか、とどこか腑に落ちない自分がいた。

そんな夏、私は動画サイトであるドキュメンタリー番組を見つけた。それは、緊張や不安によって人前で話せなくなる、場面緘黙症という特性を持った十四歳の少女の話だった。家族以外の人の前では一言も話せない。一方で、趣味のお菓子作りに没頭し、自身のお菓子工房を母と経営していた。緘黙症を少しでも改善するために、お菓子工房には半透明の亚克力板を設置し、来店したお客さんにお菓子を作る姿を見てもらう、という工夫をしていた。場面緘黙症という名の症状は私の友達に似通っていた。もしかしたら、友達も同じ緘黙症なのかもしれない、だから話せないのかもしれない。頭に過った。それならこれからも「はい」と「いいえ」だけの友達でいいじゃないか、と。

しかし、この私の考えは当の友達によって覆された。友達と私は吹奏楽部に所属し、同じ打楽器パートを担当している。コンテストに向けての練習に励む中で、私は、自分の音に自信が持てなかった。そこで、友達はどう叩いているのかなあという半ば軽い気持ちで、一緒に同じ部分を叩いてみた。すると、友達の音から「私（友達）はこう叩きたいんだ。どうかな？」という優しい心の声が聴こえた気がした。友達は私に音で教えてくれた。友達の音は私の支えになり、成長し、自信に繋ぐことへの大切なきっかけになった。それからはひたむきに友達の音を聴くようになった。そうしているうちに自分にはない友達のある面に気付いた。それは一曲の中でいくつもの音を使い分けているということだ。ゆっくりとした静かな場面では、包み込むような優しい音を、強くて激しい場面では、一糸乱れぬ鋭い音を、クライマックスに向かう場面では、力を振り絞った熱意の溢れる音を。「はい」と「いいえ」という二択を超えた世界への、大きな一歩を友達は踏み出していた。

表現することは、言葉で話すことだと思っていた。私は人とおしゃべりをするのが大好きで、自分の気持ちを誰かに伝えようとすれば、とにかく話す。それが自分の中の普通だ。しかし、私の友達は「はい」と「いいえ」で持っても、音で持っても自分を表現している。ドキュメンタリー番組の少女はお菓子作りの過程をお客さんに知ってもらうことで自分を表現している。私は学んだ。私にとって、友達にとって、少女にとって、それぞれの表現の仕方がそれぞれの当たり前なのだ。表現の自由とは、人の数だけ普通がある、人の数だけ表現の仕方がある、みんなちがってみんないい、そういうことなのだ、と。表現の自由はなんて素晴らしい権利なのだ、と。

しかし、他者の決めつけが素晴らしい表現の自由、という権利を不自由なものにしてしまうことがある。私は、友達が障がいを持っているかもしれないから話せないのだ、と決めつけていた。私は友達のたった一つに過ぎない姿を友達の全てだと思っていた。そして私は私自身の決めつけによって友達の持っている輝かしい姿に長い間気付くことができなかった。他者の「できる」「できない」を自分の当たり前の基準で決めつけることは、知らず知らずのうちに、人を無意識に傷つけたり、人が踏み出した大きな一歩を踏みつけてしまったりする。

私はこれからたくさんの人と出会い、さまざまな表現をする人と関わりを持っていく。その中で、自分と違ったり、「あれっ」と思ったりすることもあるだろう。そんなとき、「いろいろな表現の仕方があっていいんだよ」と真っ先に人を認められる自分でありたい。そして、温かい目で、温かい声を掛けられる人が増える社会になることを心から願っている。

私は今日も友達の音を一番近くでひたむきに聴き続ける。